

“フランス産マンガ”の パイオニア

『ドリームランド』ルノー・ルメール氏を迎えて

日時：2024年11月15日（金）19：00～21：00

場所：明治大学中野キャンパス高層棟402教室

※通訳付・入場無料・一般来場者歓迎

参加される方はQRコードからお申込みください。



フランス・ベルギーを中心に発展した「バンドデシネ」=BD(ベーデー)は、アメコミ・日本マンガと並び、世界3大コミック文化圏の一つで、ヨーロッパに特徴的なコミック形式といえます。

しかし最近では、伝統的なBDとは別に、フランス産「マンガ」を描く作家たちも増えてきました。そのときに、「マンガ」とはどのようなものをいうのか、日本産の「マンガ」とはどう違うのか？ また伝統的な「バンドデシネ」とはどう違うのか？

“フランス産マンガ”初の成功例といえるのが、この秋、日本でも連載が始まった『ドリームランド』です。その著者、ルノー・ルメールさんを迎えて、フランスからみた「マンガ」について掘り下げるとともに、『ドリームランド』の制作秘話をうかがいます。



講師：ルノー・ルメール (Reno Lemaire)

1976年フランスのモンペリエ生まれ。7歳の時、独学で初めてバンド・デシネ（フランススタイルのコミック）を描く。15歳のときに日本のマンガ『ドラゴンボール』と出会い、物語の描き方が一変した。

2004年、24歳のときに、Pika Éditionに『Dreamland』を持ち込み、2005年から連載開始。“フランス産マンガ”の最初の成功例となり、現在、22巻まで刊行されている。2022年にフランスでアニメ化が決定。日本でも今年9月、『ドリームランド』としてLINE マンガで連載開始。単行本1巻が10月に飛鳥新社から発売された。

